

アフリカ踊ろう!

2021年5月 NO. 101

100号記念 企画座談会 アフリカチームの歩み その2

前号に引き続き座談会の続きです。座談会参加者紹介



今井高樹
現JVC代表



石川(下田)朋子
元JVCスタッフ



栗田貴之
アフリカチーム



小河原房男
アフリカチーム



中川 透
アフリカチーム



中村俊哉
アフリカチーム
座談会でMC担当

中村：若い力で成し遂げた企画とか合宿の他にはどんなことやっていました？

栗田：自分が記憶に残っているというか、すごいしんどくて楽しかったなあっていうのはやっぱり勉強会ですね。その当時インターネットが無かったので、エチオピアって言っても、「なんじゃそりや」って所だったんですよね。勉強会しましょうと。ボランティアが順繕り発表やっていくんですけど、情報が本当に無いから。覚えているのは、大学の図書館行って、辞典引いて「あ、こういう国なんだ」というのを一生懸命纏めて、その当時画面が一行しかないワープロにそれを一生懸命打ち込んで、発表するんですけど、自分が学生ボランティアやっていた時、アフリカすごく詳しい方が多かったので、自分としては120%の力で（発表を）やったつ

もりが、メッチャだめ出しが入るんですよ。「そうじゃない。あなたちゃんと調べたのか？」とか言われて、その当時すごい負けん気が強かったのでチクショーって思って、一生懸命さらに調べて、次の回とか発表して、またその発表のレポートとかを「もう一つのTE」（「アフリカと踊ろう」の事です）に載せなきゃいけなかったんで、結構またそれでワープロをバーッと打ったり、というのが本当に大変でしたけど、すごい勉強になりましたね。

石川：それってボランティアチームのお互い学び合おうっていう会？

栗田：そう、確か外部（一般公開）には出していなかっただと思うんだけど。

石川：私、栗田くん、クソカスにスタッフにやり込められてるのは何回か見たことがあるんだけど。あんまり

私がやった記憶がなくって。私がボランティアチームですごい頑張ったっていうのは連続講座。ボランティアチームがアフリカの事業の活動資金を作る。映画でアフリカを伝えようとか、料理でアフリカを伝えようとか、いろんな切り口でアフリカを見ていきましょうという連続講座で、それこそ十何万稼いで、そのアフリカチームの貯金通帳を作ったのもその頃で、ある一定額は事業に寄付する。ある一定額は講師を呼ぶとか、場所借りるお金にするとか、っていうで残してプールして（貯めて）おいて。自分たちで活動やった時は、それこそ今でも覚えてるけど、映画会は百人とか来て、いっぱい人が座っているというのは覚えていて、そこでお金を作っていったのはすごい大変だったし、楽しかったな。その講師との調整とか、それこそアジ研（アジア経済研究所）とか、ただJVCの名前を使うから、スタッフにも許可をもらって出したらボランティアチームで呼んでもらうんだったら謝礼はいりませんとか言われたりとか、そういう交渉も、場所取りとかも、自分たちでやったっていうのはすごく思い出に残ってるかな。

今井：何から何まで自分たちでやっていたっていうか、グロフェス、当時の国際協力フェスティバルで、何かアフリカチームで出してたっていうか。中川くんなんか、それやるうちに実行委員会のメンバーになっちゃったりとかして（笑）

中川：石川さんが確かにやって、何か楽しそうだなって。僕もやっていいですかって。

今井：もちろんJVCの名前だったけど、実質アフリカチームが全部やってたっていうか。

石川：人もいたし力があって、物販に出るチーム、食販で出るチームもありました。割り振られたら自分達でそれこそ看板作りから最初の入りの準備からスタッフに言われるっていうより、スタッフにこうしますって伝えて当日全部やってたね。

中川：やりましたね。

今井：国フェス（国際協力フェスティバル）覚えているのが、俺がやった年にエチオピアの何かを作ったんだよね。それを作ったのがすごい大変だったのは覚

えていませんか？

栗田：コーヒーポット？

石川：ウンスラーだよ。水瓶作ってさ。

栗田：水瓶か。それを持ってもらおうと企画をやったんだっけ。

石川：そうそう。確か、重いけど、背負ってもらおうって、やったんだよね。

栗田：土粘土で作りましたよね。絵の具塗ったりとか。

今井：そうそうそう。

中川：前に一回言われたのが、何したらいいですかって聞いたら、あなた何しに来たのって言われた人がいるって。何かしたいからここに来たんでしょって。何かしたければどうぞやってください。でもあなた責任持ってやりなさいよって、そういう雰囲気がありましたね。あと当時はまだNGOっていうのはそんなになかったっていう記憶があるので、若い人がボランティアしようすると結構JVCに来ていたのかなって気はします。今はNGO増えたので分散しちゃっているのかなって、まあ、個人的な感想です。

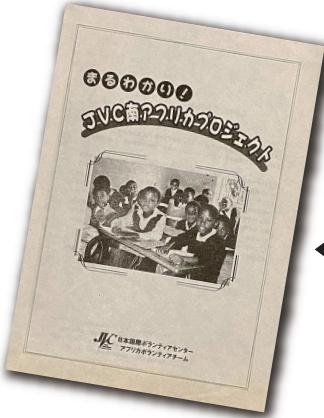
数人：ああ。

今井：当時よく覚えているのが壽賀さん（元JVCスタッフエチオピア担当）が「ボランティアのためのボランティアはしない」って言ってたこと。

全員：ああ。

今井：その言葉はよく覚えているよね。スタッフがボランティアのために「はい、これどうですか？」っていうことはしないから、やりなさいって。はっきりしましたよね。やはりよく怒られてましたよね、スタッフに。色んな事で。

栗田：ホント怒られて、火曜日來るのが苦痛だった時もありますね（笑）あの当時E-mailもないから休んでも連絡来ないはずなのに、なんかすごい行かなきやっていう気持ちがあって、例えば発表の日とか、またクソミソに言われるんだろうなって思いながら、いや、でも、ここで負けたらっていう感じもあって、あとは楽しくやりたいなっていう。あの当時情報を仕入れるのがすごく難しかったから、NGO來たらスタッフさんの話とか聞けるから、それも自分が行くモチベーションになったかなって思いますね。



◆まるわかり講座の冊子。
当時はワープロで
切り貼りしていました。

小河原：帰国報告会も結構やってて。

石川：ああ、そうだね。それ毎回ボランティアチームの仕事だったね。

小河原：そうだね。告知とかセッティングとか。

今井：渡辺さん（アフリカチーム担当のJVC職員）が今、
まるわかり講座のチラシを（オンライン上で）送っ
てくださいましたね。

中川：ああ、紛争（の講座）ね。覚えていますよ。若い人
たちが一生懸命頑張ったの覚えてます。えっとね
～黒須とかそんな人たちがいたのを覚えています。
あとラジオDJやっている子。

石川：はいはいはい。

中川：その2人が頑張った記憶はある。

今井：すごいよね講師陣も。

石川：あ、武内さんが、無料で来るボランティアチーム
でアフリカの事を自分たちが研究するのは、そういう
事を伝えるためでもあるので、そういう場を作っ
てくれって、お金はいらないって。あ、映画『ホテ
ル・ルワンダ』か。すごいね講師も。

栗田：毎週やったんですね、これ。

中川：結構しんどかったですね。確か。

今井：こんなことやっていたなんて知らなかったな。俺が
スーダンに赴任した時期なんだけど。こういうこと
やっていたんだ。

中村：担当、渡辺さんと石川さんになっていますね。文
京区のシビックセンターでやったんですね。

中川：確かに渡辺さんに講師紹介してもらって、後の折衝
とかはアフリカチームでやった記憶がある。

小河原：僕はこの「まるわかり講座」の冊子を作りました。

これは朋ちゃん（石川）も記事を書いているし。分
量あってがんばったなって覚えていますね。

中村：それってPDFとかないですよね。

中川：当時は切り貼りとかしてアナログで作ったと思
います。

小河原：ワープロを切り貼りしてね。だから創刊号の
データとか無いんですよ。

中村：「アフリカと踊ろう」の話ですよね。

小河原：そうそう。

中村：「アフリカと踊ろう」今回100号達成といふことな
んですけど100号の間にはこんな企画もあったよ
とか、こんな面白い記事あったよとか、そういう思
い出ってありますか？

小河原：いや、毎年変わらないというか、イベントの記事
や帰国報告会の記事とかね。後は自分で勉強した
エイズ問題を書いていたということはありますけど。
後はフリマの結果とかですかね。

中村：フリマの話なんですが、今はコロナの影響で中断
しているのですが、それまでは年に3、4回アフリ
カチームとして出店していたのですが、もともとは
小河原さんが何年くらい前に第1回目をしましたっ
け？

小河原：いつかは忘れましたけど、明治神宮の駐車場で
やったフリーマーケットが最初でしたね。当時、紳
士同盟というのがあって、例えばラオスチームは古
はがきを集めて、カンボジアチームはテレホンカー
ドを集めるといたようにチーム同士囁み合わな
い暗黙の了解があったんで、じゃあアフリカチーム
はフリーマーケットにしようということになりました。

今井：何年くらい？2003年くらい？

小河原：2002年だったっけ？僕が持っていたガンダムの
フィギュアが売れに売れちゃって。朋ちゃんが「こ
れ売れるわけ無いじゃない」と言ってたけど。

全員：（笑）

小河原：当時、中古集めようといったとき、朋ちゃんあま
り良い顔をしていなかったね。

石川：だってね。小河原君お金無いのにそういうつまん
ないおもちゃばっかり買いあさって、コンビニと一緒に

に行ったらおまけ付きばっかりさ、それ全部寄付するんだよね。「そんなの誰も買わないよ」って言ったらそれが馬鹿売れして、アイキャッチになつてすごい人がアフリカチームのブースに来てくれて、すごい売り上げになったのを今でも覚えてますね。小河原君、ゴメンね。

全員：（笑）

今井：まあいつもアフリカチームのミーティングの時も朋ちゃんが小河原君のことを心配していて。

全員：（笑）

中川：心配してコキ使うみたいな。

石川：そう、それがフリマの最初。

中村：フリマね。まあここ数年僕が中心になってやらしてもらったのですが、やっぱ出品王は小河原さんですよね。毎回いろんな物を持ってきてくれて、「え？ こんなの売れるの？」って「真冬にそうめん器なんて売れないでしょ」とか。

小河原：でも、大きなぬいぐるみは売りましたよね。

中村：（お客様が）娘さんにせがまれて、「パパ、あれ買って！」って言われて。それは結構レアケースだと思いますよ。普通かさぶるものは持って帰ってくれない。まあフリマはそんな感じで結構長くJVCの後方支援になるのならという事で、モノを寄付してくださる方とか、それを預かって売るっていう。ほんとにボランティアのスタイルとしてね、それを体現しているような活動ってことでしているので、なので今も続けられていると思うんですけど、フリマ以外でも活動というかイベント事で面白いことやったよっていうのは何かありましたか？

小河原：あとスタディツアーぐらいかな。僕は南アに行って、黒人の障がい者施設のところを訪問してお手伝いをするっていうのがあって、それに参加しました。

今井：それいつ頃？ 90何年くらい？

小河原：2002年？ 津山さん（元JVCスタッフ・現AJF代表）が現地スタッフでいましたね。そこでドウドウちゃんととかに歓迎されて、歌をうたってくれたりとかしてくれましたね。中川くんとかもね。あれ？ 違ったっけ？

中川：私は卒業旅行で勝手に1人で行っただけです。

小河原：朋ちゃんもエチオピアに自分で行ったんだっけ？

石川：そうです。ただ、私はボランティアチームで1回エチオピアのスタディツアーや企画をしていて、私以外の4人は行ったんですよ。99年か、98年か。私はその5人で企画して、色々現地ともやり取りしてたのに、会社の許可が出なくて行けなくて。獅子君はじめ、何人かエチオピアに行ったんです。ボランティアチームの良い所って、スタッフと距離が近かったり、現地のスタッフが帰ってきた時には必ず一時帰国報告会の場所や日程調整をボランティアチームがしたりして、現地のスタッフとも仲良くなれて面識ができたりして。中川君もそうだったと思うけど、卒業旅行に行きたいとかスタディツアーや現場見たいって言っても、スタッフも受け入れてくれるという土壌ができて、すごく良い交流になってたと思います。スタッフが来日した時に報告会やったり、直接話す事も。さっき出てた津山さんとか現地のスタッフが来た時にもボランティアチームってすごく近いところで交流ができる。直接話を聞けたり、いい経験もさせてもらってましたね。

中川：そうですね、スタディツアーやりたいんなら自分で企画すればって感じです。

石川：絶対NGな期間は言つてもらって。やり取り出来たっていうのはありますね。

今井：オフィシャルにJVCが企画するスタディツアーハイレベルではなくて、自主的にやるスタディツアーダよね。昔は団体がやるスタディツアーや今は旅行業法で法律で規制があるので。

小河原：僕が南アフリカに行った時も道祖神（旅行代理店名）が企画をしている体でJVCを訪問するっていう形だったから。

今井：私は2000年に南アフリカにスタディツアーハイレベルで行ったんですけども、それがJVC主催企画は最後だったかもしれない。

その3に続く